

山本眞樹夫名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

山本眞樹夫先生は、本学管理科学科をご卒業後、東北大学大学院で学び、福島県会津短期大学助教授を経て、1982年4月に助教授として本学に赴任されました。1990年10月に教授に昇任された後、1996年7月の学生部長就任を皮切りに、2002年4月に副学長（学術担当）、法人化後2004年4月には理事・副学長（総務担当）、そして2008年4月から第九代学長として2期6年間、学生部長の任期を含めると実に16年間にわたり本学の管理運営にあたられました。この間、私は、偶々、理事・副学長の職にあり、山本先生とは、同僚として、学長就任後は補佐役としてご一緒に仕事をする機会がありました。

山本先生が管理職に就任された1990年後半は、国立大学の改革が本格化した時期でした。1998年には、その後の大学改革の方向を決めた大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境のなかで個性が輝く大学」が出されました。山本先生の16年は、この方向の下で本学を維持・発展させるために費やされた「改革の16年」と言っても過言ではありません。

山本先生が手がけられた改革のなかで特筆すべきものとして、学生部長として関わられた2001年の学部教育課程改革が挙げられます。現在でも続いている「平成13年度カリ」と呼ばれるこの教育課程は、「商学」を幅広い領域の学問分野から現実の課題解決を探る応用的・実践的総合社会科学とする明確な方針に基づくもので、本学を、それまでの社会科学系総合大学から「商科系単科大学」に方向転換する極めて重要な改革でした。また、副学長及び理事・副学長の時代には、専門職大学院（2004年）及び博士後期課程（2007年）の設置という大きな大学院改革に手腕を発揮されました。専門職大学院（商学研究科アント

レプレナーシップ専攻)は、実学教育を標榜する本学がその存在意義を賭けて導入した社会人対象の夜間大学院であり、10年を経て、300名を越えるMBA取得者を排出し、北海道経済を支える人材育成を果たしてきました。商学研究科現代商学専攻博士後期課程の設置も、国立大学としては数少ない商学・経営学系の博士号を授与する大学院として、知識基盤社会で活躍する人材育成を果たしています。そして、学長職の最後の年に、グローバル・マネジメント・コース構想を発表されました。残念ながら、これは先生の就任中には実現しませんでした。現在(2014年9月)全学を挙げて取り組んでいるところです。

山本先生が学長在任中に、本学は創立百周年を迎えました。本学のOBでもある先生のもとで、同窓会と連携し後世に残る記念事業(教育振興基金の創設、寮の建設、史料展示室の移転、百年史の出版等)を行うことができたのは幸運でした。

山本先生のご専門は会計学です。公表された数多くの著書・論文のなかでも、とりわけ、会計測定の基礎理論と資金会計論の二つの分野での研究が特徴的です。会計測定の基礎理論においては、意味論的アプローチに基づく会計的思考モデルの提示を探求され、1991年には「会計情報の意味と構造—現行の会計システムに関する意味論的アプローチ」の研究で東北大学から経済学博士学位を取得されています。学位論文は1992年に同文館出版から出版されています。資金会計論の分野の研究では複式簿記の構造の観点から考察に力を注がれました。

山本先生は、その他に、大学運営に関してもいくつかの論考を発表されています。そこでは、地方の小規模単科大学がいかにして社会の付託に答えていくのが詳細に語られ、改革に携わった先生の思いが切実に伝わってくる内容となっています。

山本先生は、学長を退任された後も、国立大学の監事や国の委員会・会議等の委員を務められています。その長い大学運営のご経験を踏まえ、一層のご活躍を祈念しております。